

農業の新しい技術

No. 727(令和2年(2020年)6月)
分類コード 01-14
熊本県農林水産部

褐毛和種種雄牛「第一光晴」の選抜

農業研究センター 畜産研究所生産基礎技術研究室
担当者：眞鍋由希

研究のねらい

産肉能力直接検定で選抜された種雄牛の遺伝的能力を推定するため、産肉能力現場後代検定及び育種価評価を実施し、その結果に基づき優秀な種雄牛を選抜する。

研究の成果

1. ロース芯面積及び脂肪交雑に優れた褐毛和種種雄牛「第一光晴」を選抜した。

○血統

父 光晴重 (高 89)	祖父 第十六光重(育高 2)	— 光重E T(育高 1)
	祖母 第3 さかえ(繁殖 16894)	— 第三光重(繁殖 29)
母 なみよ☆ (繁殖 18614)	祖父 波泉(繁殖 116)	— 光玉波(高 80)
	祖母 第六しげこ☆(育高 635)	— 第十光丸(高 76)

○登録番号：繁殖 2 1 2

○生年月日：平成 2 6 年 8 月 1 日

○生産地：合志市（熊本県農業研究センター）

2. 現場後代検定成績および育種価

○ロース芯面積は去勢 64.7 cm^2 、雌 64.5 cm^2 と大きく、育種価も +16.52 cm^2 (評価種雄牛 526 頭中 2 位)と極めて高かった。

○脂肪交雑は去勢 4.58、雌 6.00、平均 4.94 と高く、雌と全体平均は歴代最高となり、育種価も +3.30 (評価種雄牛 526 頭中 2 位)と極めて高かった。

○SBVは枝肉重量 0.25、脂肪交雑 3.12、ロース芯面積 4.69、バラの厚さ 1.09、皮下脂肪の厚さ 1.08 であり、特に脂肪交雑とロース芯面積の改良効果が大きいと推定される。

※SBV（標準化育種価）とは、産肉能力の特徴を把握しやすくするために、各形質の育種価を同一スケール上で比べられるようにしたもの。値が +1 以上の場合、改良効果が高いことを示す。

3. 特徴

母はロース芯面積の育種価が県内 1 位で脂肪交雑の育種価もトップクラスの「なみよ☆」、父は脂肪交雑とロース芯面積に極めて優れ、現在県内で最も多く供用されている「光晴重」であり、この交配により作出された本牛は父母の美点をよく引継ぎ、肉量と肉質の両面で改良に貢献することが期待される。

[具体的データ]

熊本県農林水産部



第一光晴 (だいいちみつはる)

格付け:A-5 枝重:526.7kg
BMSNo.:8 ロース:72cm²
ばら8.3cm 母の父:弦幸

表1 現場後代検定成績

区分	頭数	枝肉重量 (冷と体) (kg)	脂肪交雑 (BMS No.)	ロース 芯面積 (cm ²)	バラの 厚さ (cm)	皮下脂肪 の厚さ (cm)	日齢枝肉 重量 (g)
去勢	12	508.9	4.58	64.7	7.9	3.0	669.5
雌	4	451.0	6.00	64.5	7.9	3.3	580.1
全体	16	494.4	4.94	64.6	7.9	3.1	647.2

表2 育種価(BV) (R2.2月評価)

	順位	育種価 (正確度)	
枝肉重量	183	5.590	0.89
脂肪交雑	2	3.296	0.91
ロース芯面積	2	16.522	0.87
ばらの厚さ	66	0.361	0.87
皮下脂肪の厚さ	66	-0.514	0.90
日齢枝肉重量	174	7.974	0.89

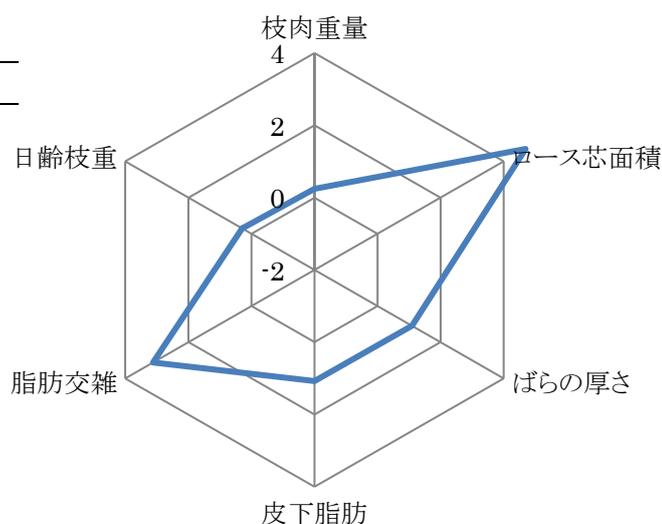


図1 SBV (標準化育種価)

※ 産肉能力の特徴を把握しやすくするため、各形質の育種価を同一スケール上で比較できるように処理したもの
※ 皮下脂肪は逆符号

※ 後代頭数18頭(フィールド成績を含む)

※ 順位は評価種雄牛526頭中の順位